

研究科長 ごあいさつ

看護学研究科長 おかだ ゆか 岡田 由香教授



「ふつうのくらしのしあわせ」を看護の力でデザインする

私たちの社会は今、複雑化・多様化する健康課題に直面しています。保健・医療・福祉のニーズが変化し続ける中で、看護職に求められるのは、単なるケアの提供にとどまりません。多様な人々が住み慣れた地域で、その人らしく最期まで暮らし続けられる「仕組み」を看護の力で創り出し、支えていくことが求められています。

看護学研究科は、2020年の開設以来、大学の理念である「ふつうのくらしのしあわせ (Well-being for All)」を掲げ、看護の専門的探究を推進してきました。この理念をさらに深め、社会の要請に応えるべく、「研究者・教育者養成」と「社会人の学び直し (リカレント教育)」を二本柱とするカリキュラムを再構築しました。

臨床や地域の現場で抱いた「なぜ？」や「もっと良くしたい」という想いを、確かな知へと昇華させる看護学研究科で共に学んでいきましょう。

養成人材像

新たなカリキュラムでは、一人ひとりの学びの目的やキャリアステップに合わせ、「研究コース」と「地域共生看護コース」の2つの柱で構成しています。「研究コース」では、看護の理論を深く追求し、科学的根拠を持って看護学の発展に寄与する研究者・教育者を育成します。「地域共生看護コース」では、実践現場の課題を学術的に分析し、多職種と連携しながら地域を牽引するリーダーを育成します。

研究コース

看護研究を主体的に進める

臨床の問いを研究へつなぎ、科学的論理に基づく「研究者・教育者」を育成。

地域共生看護コース

地域の生活課題に応える

多職種と協働し、生活を基盤とした地域のWell-being向上を牽引する「高度実践者」を育成。

1年制
カリキュラム
新設

共通のゴール：修士(看護学)の取得

■コース比較表

	研究コース	地域共生看護コース
こんな方におすすめ	理論的基盤を深め、新たな知見を創出したい方	現場の課題を即座に改善し、多職種連携をリードしたい方
身につく力	科学的論理思考、研究デザイン力	生活課題の分析力、多職種協働の調整力
最終成果物	修士論文 (オリジナリティと新たな知見の探求)	課題論文 (実践への直結・現場改善のエビデンス)
修了期間の選択	2年 (標準)、3年 (長期)	1年 (集中)、2年 (標準)、3年 (長期)

地域共生看護コース

多様な生活背景をもつ人々が地域においてその人らしく暮らし続けることを支援する看護の実践的基盤を深化させ、地域に暮らす人々の生活に生じている健康課題 (地域の生活課題) に対応できる高度実践者を目指します。

※高齢者、障がい者、子育て世帯、医療的ケア児、在留外国人、生活困窮者、DV 当事者など多様な人々の地域の生活課題に対応し、また、災害などの有事にも備えた複合的なニーズに応じて、包括的かつ継続的な支援を主体的に、医療・福祉・教育・行政など多様な分野と協働し、地域づくりを牽引できる人材を育成する。